



# 黒潮町で農業をしよう

## 高齢化が進む農家

黒潮町では、施設園芸を中心に、それぞれの地域に合った品目が生産されています。なかでも、キュウリは、ミョウガやオクラと並んで、黒潮町の基幹品目の一つです。

しかし、近年、農家の高齢化に伴う離農が進んでいます。2010年の農林業センサスを見ると、農業就業人口(販売農家)は874人で、5年間で21%減少。また、同年の高知はた農協の調査では、施設園芸農家の過半数が60歳代以上。このままの状態が続けば、ますます高齢化が進み、農業の販売額や出荷量などがマイナスとなる厳しい状況が予想されます。

## 新規就農者を育てる

農家の後継者不足を解消する一つの手段として、新規就農者の確保があります。

黒潮町は、高知はた農協と協力し、平成25年4月、一般社団法人黒潮町農業公社を設立。同年9月より、研修生2人を受け入れ、研修ハウスで促成キュウリの栽培を行っています。



浮鞭にある研修用ハウス。15aのハウスが2棟あり、2人の研修生がそれぞれ担当しています。

研修期間は2年間。研修生は、15aのハウスを任せられ、実際にキュウリを栽培することで、農業経営と農業技術の両方を学ぶことができます。研修終了後は独立、または引き続き実践研修を受けられるしくみを計画しています。

また、町内農家で研修する事業もあります。研修期間は1〜2年間。研修生が希望する品目を栽培している農家に対して、研修手当を支給します。

事業が始まった平成22年度以降、研修を修了した5人が自立農家として、花、アスパラ、イチゴ、たばこ、キュウリ、ニラなどを生産しています。また、現在は3人の研修生(1年目2人、2年目1人)が、栽培技術を学んでいます。

## 農業を始めたきっかけ

平成25年度の研修生4人(公社2人、農家2人)にお話をうかがったところ、きっかけはさまざまでも、収穫の喜びと自立農家への熱意は、全員に共通する想いです。



■ 中村弘之さん(農業公社研修生)

四万十市出身の中村さん。病院事務として8年間勤務した後、農業をやってみたくなり退職。

その後、黒潮町内でたばこ農園などを手伝っていたところ、農業公社のハウス建築に携わり、研修事業を知り申し込んだそうです。実際に農業をしてみると、キュウリは病気になる、量も獲れない。「農業は大変。他の人はどうやってやりようがやろう」と悩みながらも、農業公社の篠田さんの指導のもと日々作業に励んでいます。研修後は、町内の親戚のハウスでキュウリを栽培する予定。「少しづつでも収量を増やして、お金を稼げるようにしたい。」

■ 池添 純さん(農業公社研修生)



生まれも育ちも黒潮町の池添さん。大工として働いていまし

たが、左親指をけがして仕事ができなくなり、農業公社の篠田さんの紹介で、研修生となりました。ご実家も農家(ラッキョウ、米)で、実際に農業を始めてみても予想以上の大変さではないとのこと。

「今はまだまぐれみみたいなものだが、収穫の時、形がよかつたらうれしい。自分で管理できるように、農作業の手が追いつくようになりたい。」

■ デイヴィッド・ギルリーさん(農家研修生)



アメリカ出身のデイヴィッドさん。10年前に日本に留学し、

愛媛県で7年間ALTをしていました。農業に興味を持ったのは中学生のころ。学校で畑や鶏の世話をしていたそうです。サーフィンでたびたび来ていた縁で黒潮町の研修生に。

「元気な野菜を育てるには、肥料や消毒など考えることが多いが、いい感じでやっている。早く自分のハウスを持つて独立したい。」

■ 天野 隆さん(農家研修生)



神奈川県出身の天野さん。IT関係の仕事をしていましたが、

「自分で作ったものの結果が見えることをやりたい」と農業に転換。愛媛県でミカンの自営農家をしていましたが収入が安定せず一時はあきらめかけたそう。でもやっぱり百姓がしたいと、四万十町のアグリ体験塾で10カ月農業の基礎を学び、キュウリを作るため黒潮町に来ました。

「作中は休みなしで忙しいが、やった分だけお金になる。一日も早くまともなキュウリ農家になって、師匠(受入農家の森岡さん)に報告したい。」

お嫁さんも募集中だそうです。

○お問い合わせ

本庁 農業振興課 農業振興係

☎ 43-1888(直通)

## 新規就農研修生を支える人々



■ 一般社団法人 黒潮町農業公社  
営農指導員 篠田真也さん



高知はた農協から出向している篠田さん。毎日研修用ハウスに行き、研修生に促成キュウリの栽培技術を指導しています。

■ 研修受入農家 森岡隆基さん

40年近くキュウリ一筋の森岡さん。「天野くんのために厳しく指導している。地域に溶け込んで、地域に信頼される農家になってほしい。」

■ 研修受入農家 宮川 孝さん

ハウスでキュウリ、オクラ、新ショウガを作っている宮川さん。「デイベは大きな夢を持っている。言われたことだけでなく、自分からすすんでできることをやって、積極的に学んでほしい。」

